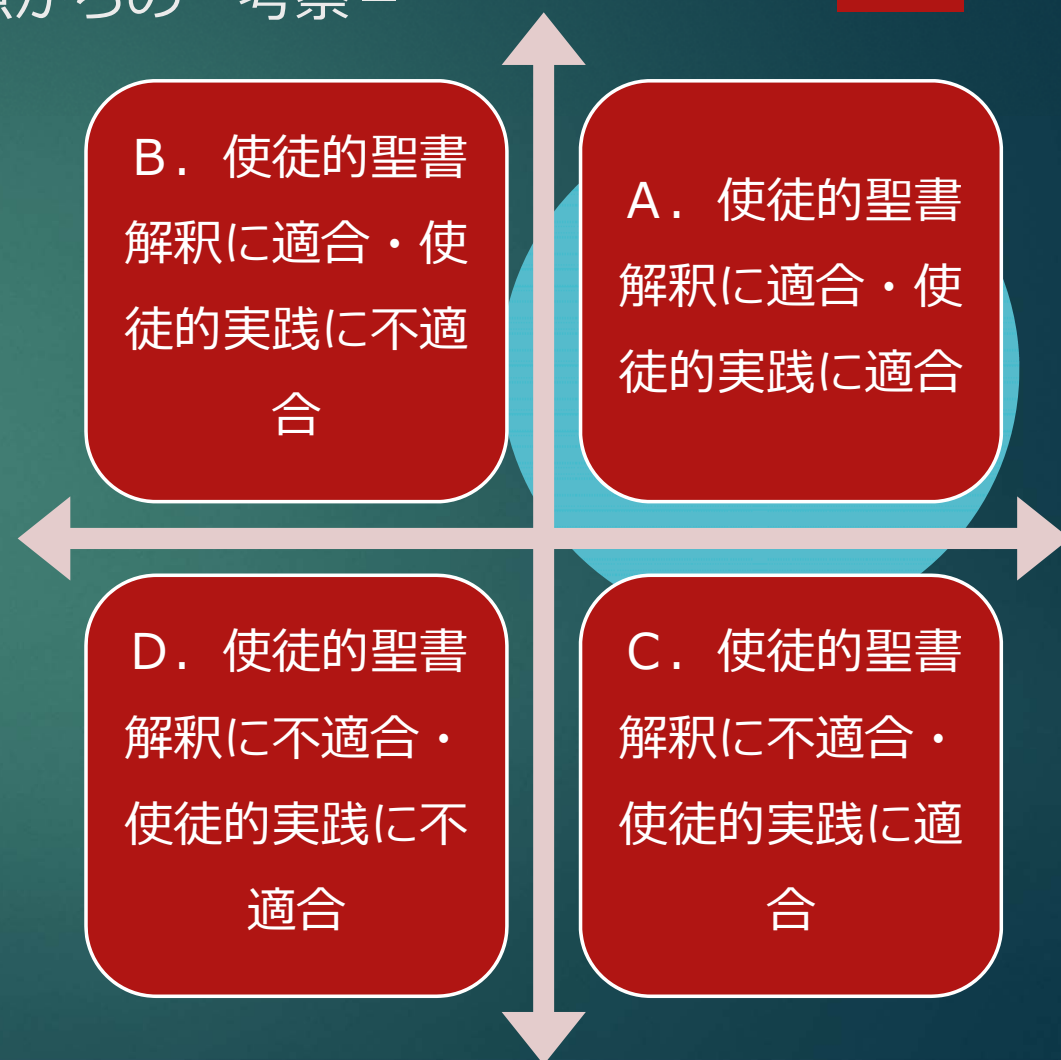


『福音主義イスラエル論』

－神学的・社会学的視点からの一考察－

1. 神学生の質問
2. 「世俗国家としてのイスラエル」理解
3. 福音主義陣営における二つの解答
4. 神学的・社会学的視点からの考察



I. 神学軸－聖書解釈における「使徒的正統性」の反映の如何

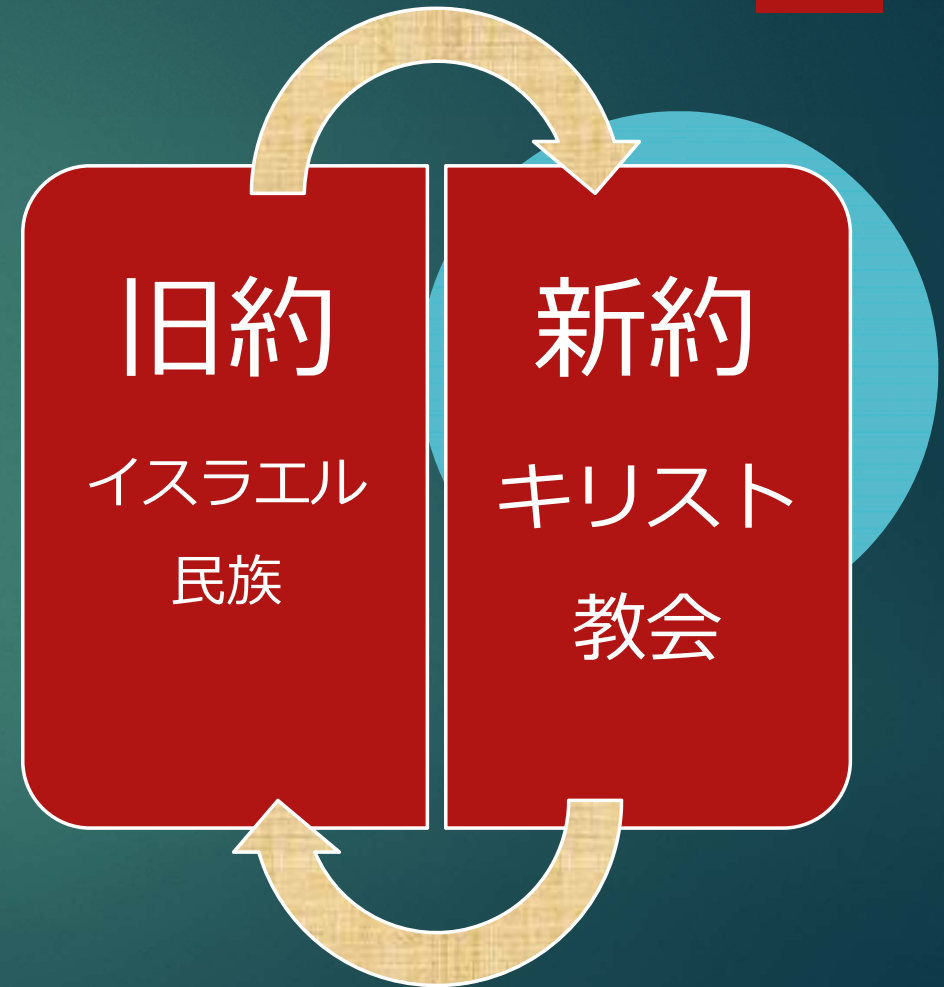
A) 使徒的聖書解釈法とは何か

- ① 共通の聖書観
- ② 二つの物語
- ③ 二つの聖書解釈法

B) 使徒的イスラエル論とは何か

- ① マクロの視点－イスラエル論に関する議論のベクトル
- ② ミクロの視点－ディスペンセーション主義イスラエル論のベクトル
- ③ 使徒的イスラエル論とは何か

C) 神学軸における評価



Ⅱ. 社会学軸:実践における使徒的正統性の反映の如何

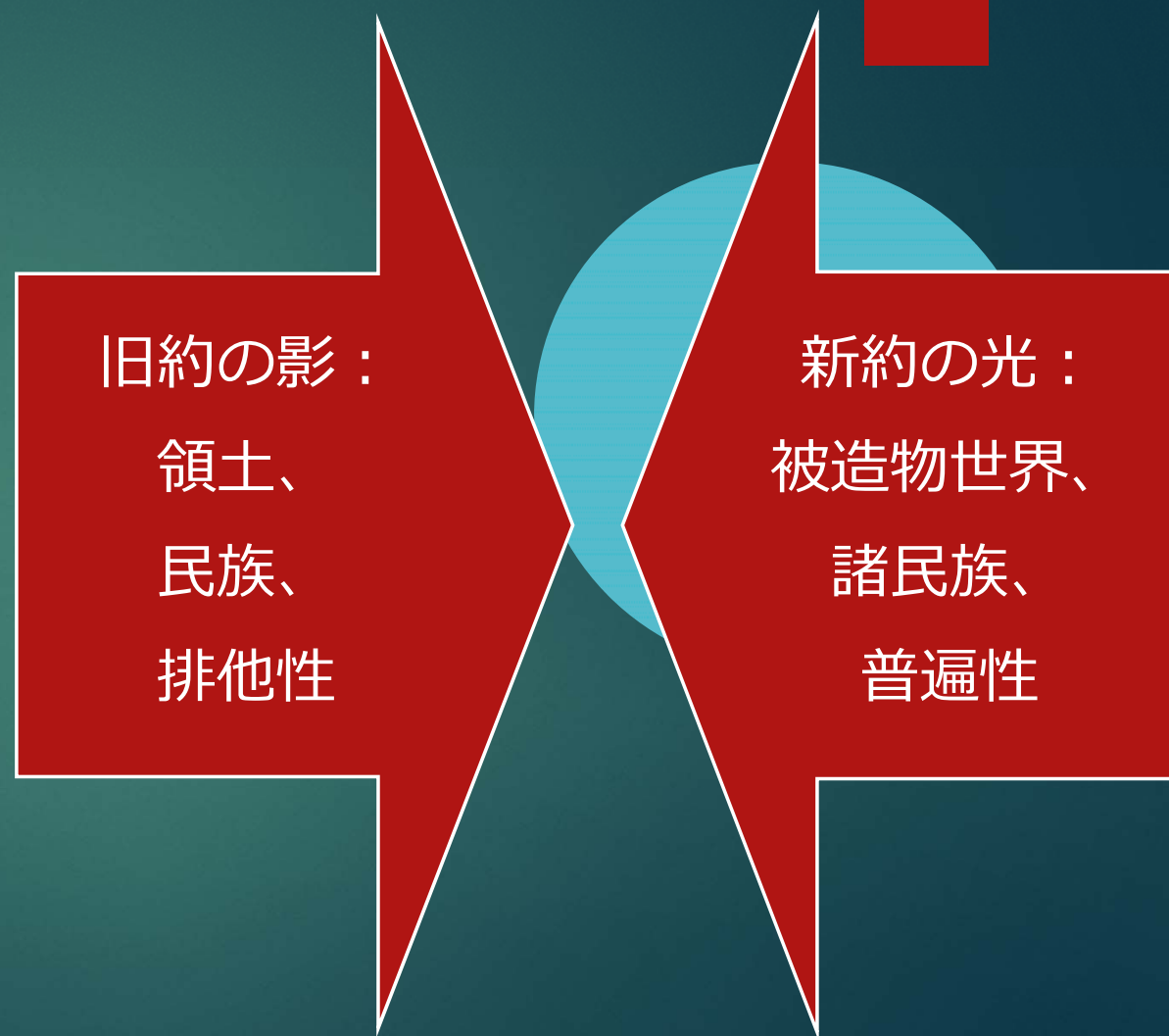
A) 考察の焦点としてのキリスト教シオニズム

- ① キリスト教シオニズムとは何か
- ② キリスト教シオニズムの諸形態

B) 使徒的实践への不適合と適合の要素

- ① 使徒的实践に適合しない要素とは何か
- ② 使徒的实践に適合する要素とは何か

C) 社会学軸における評価



結語: 福音主義イスラエル論における 使徒的正統性回復への呼びかけ

「いつの時代でも、聖霊は教会
に対し、聖書による神の啓示に
忠実であるかどうかの精査を命
じられる。...おのこのの伝統を
謙虚にかつ批判的に精査し、間
違って神聖視されている教えや
実践を捨て去ることによって、
神は歴史上のいろいろな教会の
流れの中で働いておられること
を認識しなければならない」
(シカゴ・コールより抜粋)

